



**JR東労組** (東日本旅客鉄道労働組合)  
 〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷5-24-1  
 東日本旅客鉄道株式会社 代々木総合事務所 5階  
 電話 03-5315-0941  
 発行人 加藤誠 編集人 湯ノ目亜矢子  
 毎月1回20日発行/一部20円  
 (組合員の購読料は、組合費に含む)

2024年11月20日  
 第768号



JR東労組ホームページは  
 ←こちらからアクセス  
<http://www.jreu.or.jp/>

# 2024年度年末手当

上半期の業績や経営状況等を総合的に勘案した **2.8ヶ月**

構造改革の進展と成果、物価上昇に伴う生活実感を踏まえて **特に0.1ヶ月を加算**

## 基準内賃金の **2.9ヶ月**

支給日(予定) **令和6年12月3日(火)** とする

## 緊急アンケート 16,387件の結果

- 回答に不満・やや不満 …93.4%
- 労働実感に報いていない …87.1%
- 生活実感が反映されていない…93.3%
- モチベーションが下がる …87.6%
- 離職が止まるとは思わない …81.3%



組合員以外の未加入者や社友会  
 会員の方からも多くの声が届  
 いているけど、こんなにみんな不  
 満だらけ…会社は組合員・社員  
 の声を聞いてくれないというこ  
 とだね…

2024年度年末手当のたたかいは、年間6ヶ月以上の期末手当を勝ち取ろう! 「組合員・未加入者とともに職場から創意工夫した運動をつくり出し、努力に報いない経営姿勢に立ち向かおう!」の2本の柱を掲げてたたくてきました。

しかし、11月12日に示された回答は、要求から大きく乖離した回答であることとはより、組合員・社員の労働実感と生活実感からも大きくかけ離れ、職場の努力に報いた回答とはいえません。よって、緊急代表者会議での議論を経て、11月14日に「5号 組合員・社員の労働実感と生活実感の切実な現実と声に応え、現場第一としないう経営姿勢の是正を求める年末手当に関する緊急再申し入れ」を提出しました。

そして、11月12日の回答を受けてから「年末手当緊急アンケート」を実施し、回答に対する声を集めました。11月15日に5号緊急再申し入れの団体交渉を行うまでの3日間で、16387件の声が寄せら

れました。アンケートの他にも各地本からも声が寄せられ、17000件を超える声を基に、5号緊急再申し入れで回答の撤回を求めました。しかし、会社は「今できる最大限の回答であり、最終回答だ」として、回答を撤回することはありませんでした。

コロナ禍を越えて業績好転の転換点を迎えているなか、職場での奮闘に目を向けず、人件費抑制のため経営に都合の良い時々の出さない理由を並べるかのような姿勢は、到底納得できるものではありません。

要求実現に至りませんでした。職場からの多くの声と共に、最後までたたかい抜いたことを確認して苦渋の判断として受結することになりました。

この悔しさをバネに、現場の奮闘・努力に報いない経営姿勢に立ち向かう組織強化・拡大をさらにつくり出して、25春闘をたたかっていきましょう!

### 交渉で明らかになった経営姿勢を突破するために、仲間と共にたち上がろう!

## 第43回定期大会以降の拡大 (2024.6.19~)



JR東労組で共に頑張っていきましょう!

## ステーションサービス協議会

11月15日 妥結

### 基本給月額 **2.7ヶ月**

支給日(予定)2024年12月2日(月)

夏季手当から0.1ヶ月しか上回らず、昨年と同等、要求からも組合員・社員の労働実感と生活実感からかけ離れた回答でありましたが、アンケートで寄せられた多くの意見を会社に訴えることができました。過去最高の平均支給額の回答を引き出した成果と課題を確認し、悔しいですが妥結の判断をしました。

バス東北本部・バス関東本部は11月20日現在たたかい継続中!

要求実現のために、最後まで連帯してたたかおう! JR東労組に結集しよう!



10月27日  
 衆議院選挙  
 の投票に家  
 族全員で行  
 った▼私た  
 ち家族の前

に、小学生くらいの子どもを2人連れた家族が投票所に入っていた。投票権のない子どもには識別用の札が渡されていた▼公職選挙法が改正されて選挙権年齢が満18歳以上に変わったことと併せて、18歳未満の同伴が可能になったことから、子どもも投票所に入れるようになったのだが、実際にそのような札が用意され渡されていることを初めて目にした▼そして大切な権利を行使する場に子どもを連れていくことは、社会経験としてとてためになるし、大事なことだと思った。さすがに一歳半の娘に今回選挙行ったことを言っても覚えていないので、この親子を見習い、物心つく頃から選挙に必ず連れて行くことと決めた▼今回の選挙の小選挙区の投票率は戦後ワースト3の53・85%と発表がされた。自分たちの生活のかかる選挙に有権者の約半分が権利を行使していない。無関心でいても無関係ではいられない。自らが持つ権利を行使する当たり前のことを、娘だけではなく、周囲の人たちにもしっかりと伝え、行動していきたいと思う。

(T・S)